

別紙 A

四日市版コミュニティスクール報告書（令和元年度総括）

四日市市立泊山小学校

校長 前田 典昭

1 コミュニティスクール（運営協議会）のねらい

平成29年4月に本校は、四日市市教育委員会から四日市版コミュニティスクールの指定を受け、「泊山小学校運営協議会」（以下運営協議会）を発足させました。

学校づくりビジョンに掲げた学校教育目標「共に学び、共に生きる」子どもの育成のため、学校を御支援いただいている保護者や地域の方々の活動を継続・発展させ、学校教育の一層の充実を図ります。

2 コミュニティスクール（運営協議会）の実践について

(1) 教育活動の実践事例

運営協議会は、これまでの学校づくり協力者会議を母体とした発展的組織として、自治会代表、主任民生児童委員、PTA 代表、校区内の児童養護施設や母子支援施設の代表等7名で構成しています。ここに、本校職員が加わり、年間5回程度の会議を実施し、保護者や地域住民の学校教育活動への参画のあり方を協議するとともに、保護者や地域住民の具体的な取組内容や時期等について調整を図っています。

定例の会議では、写真のように、必ず全学級の授業参観を行い、子どもの実態に即した協議を行うようにしています。協議



の中で本校の強みや課題をあぶりだして、充実した教育活動の方向付けを行っています。本年度は、本校の言語活動を充実させた授業ぶりについてさらに推進する方向で意見をいただき、プレゼンテーションを充実させるために全クラスに指し棒を配置しました。

また、冬季の手洗いを促進し、衛生的に手洗ができるようにするために、固形石鹸の代わりに、ポンプ式の液体ソープを置く進言をいただき、実現させました。

南部丘陵公園を校区に抱いた本校では、恵まれた環境を生かす取組として、

運営協議会委員にお世話いただきながら、「梅ちぎり」や「梅まつり」などの行事に参加しています。3月はコロナウイルスの影響で「梅まつり」が中止になりましたが、4年生は「エイサー」の踊りを披露する準備をしていました。

写真のように、梅が実る季節には、各学年が南部丘陵公園で梅林の歴史や保全に関する説明や体験講座を受けます。運営協議会委員長をはじめとして、地域の「日永梅林を守る会」の方々に各所で説明をしていただきます。各自がちぎった梅は、漬け込んで梅シロップとして賞味するなど、学校生活を彩る地域資源として、子どもたちに親しまれています。



また、自治会や市民センターにもご協力いただきながら、毎年、防災倉庫の備品を活用した「防災教室」を行っています。ここでも運営協議会委員のお二人と地域の方々から説明を受け、発電機や消火器の使用法を学んだりします。学校の敷地にある倉庫の中身を知り、実際に活用することで地域の一員としての自覚が高まる取組となっています。

(2) コミュニティスクール（運営協議会）の取組による効果

前述のように地域教育資源を生かした特色ある教育を、本年度も継承しつつ、発展させることができました。

また学校の現状について、参観や各種報告を元に理解いただき、適切な助言をいただくこともできました。授業においては、児童が互いに意見交流することで理解を深めていく様子を評価いただき、さらに堂々と、体を聞いている人に向けるために、写真のような指し棒を各教室に配置することとしました。



教室まわりの掲示物も、図工作品では各児童の個性や感性がうまく引き出されているという声や、児童のノート見本や新聞では指導が行き届いていることがわかるとの評価もいただきました。これらの取り組みは、黒板を使ってわかりやすく児童に指示を通していくことが大切であり、本年度も拡大コピー機の用紙を購入しました。さまざまな資料をスキャナーで読み取り、拡大コピーして指示を工夫しています。

朝の読書においては、読み聞かせのボランティアとして20人近くの登録をいただいております。保護者や地域の方に、しっとりとした読書の時間を作ってい

たきました。

清掃に関して、本校の清掃時間の黙働にも一定の評価をいただいています。手洗い場において、網にレモン石鹼を入れて使用していましたが、委員からは「網のよごれが気になる」「ぞうきんを洗うのに石鹼や網を使う児童もいるだろう。衛生面では大丈夫か」といった声があり、写真のようにポンプ式の液体ソープを導入しました。



総合的な成果を示す指標とし、学校評価・児童アンケート「学校は楽しい」の肯定的な回答は90%となっています。本年度は児童の欠席が大変少なく、数年前まで長期欠席児童も含めて、全校の欠席数が常に2桁を下らなかったことを考えると、大きな改善が見られます。たとえば、1月14日は全校の欠席数が3名、翌15日は2名でした。風邪がはやる時期であることを考えると、子どもたちが休まず元気に登校している様子が表れています。

同じく児童アンケート「学力向上」においては「宿題は忘れずに、きちんとしている」の肯定的な回答が87%となり、非常に高い数字を維持しています。毎日休まずに登校すると同時に、家庭と連携しながら、家庭学習も充実させることで、学習効果が高まります。

3 今後に向けて

毎日の欠席児童数が大変少ない状況はよろこばしいことですが、それでも、学校評価・児童アンケート「学校は楽しい」で肯定的な回答をしていない児童が10%います。休まず登校するだけでなく、全員が楽しく登校できる学校づくりを目指して、教育活動をさらに細かく見直していきます。

また、来年度は創立50周年を迎えます。地域に根付いて発展してきた本校の教育を、さらにどのように特徴づけて、その特徴を伸ばしていくか。コミュニティスクールを活用して、特色ある教育の推進と地域の人的資源の活用を進めていきます。

別紙B

令和元年度四日市版コミュニティスクール活動報告

四日市市立泊山小学校

委員長 小池 儀作

校長 前田 典昭

月	協議会の開催	
4		
5	第1回 運営協議会	校内参観 学校づくりビジョン承認
6	第2回 運営協議会	校内参観 1学期地域学習等報告
7		
8		
9		運動会参観
10	第3回 運営協議会	校内参観 大規模改修後の学習環境の確認
11		
12	第4回 運営協議会	校内参観 2学期地域学習等報告
1	第5回 運営協議会	校内参観、年間活動総括及び学校関係者 評価
2		
3		